Safety Report　セーフティルポ　子ども

小学校入学直前の幼児に自転車の安全な乗り方を身につけてもらう

三重県鈴鹿市は、市内の幼稚園・保育園の幼児を対象に実技による自転車教室を実施している。1月18日には鈴鹿市立西条（にしじょう）保育所で自転車教室が開催され、年長クラスの幼児17名が参加した。同保育所所長の宮崎美佳さんは「年長クラスでは、ほとんどの子どもが自転車を持っています。小学生になると、放課後や休日に一人で自転車に乗って遊びに行けるようになりますから、早い段階から自転車の安全な乗り方を身につけておくことが大切です」と話す。

この日の指導は鈴鹿市交通教育指導員の宮崎利香さん、近藤麻里さん、森友里さんが担当した。最初は教室での座学。交通教育指導員が腹話術の人形やパネルシアターを使いながら、転倒した時に頭部を保護するヘルメット着用の重要性を説明し、「これから自転車に乗る時は必ずヘルメットをかぶりましょう」と呼びかけた。さらに、「止まれ」の標識のある場所では自転車も必ず止まらなければいけないことを伝える。「止まる時は両手でブレーキをかけてください。『両手でブレーキ、ギュッ』です」と、交通教育指導員は両手で自転車のブレーキレバーを握るポーズを幼児に示した。さらに、「止まった後は右、左、右、右後ろを観て、クルマが来ていなければ進みましょう」と強調した。

実技では座学で学んだことを体験しながら確認してもらう。実技を始める前に、子どもたちがヘルメットをかぶる。交通教育指導員は自分のあごの間に指1本入るくらいまで、ヘルメットのあごひもを締めるようアドバイスした。

保育所の庭に10mほどの直線コースを設定。子どもたちは自転車で直線コースを走行し、ゴール地点に置かれている「止まれ」の標識の手前でブレーキをかけて止まる。そして、両手でブレーキをかけたたま自転車を降りて右、左、右、右後方を確認。道路を横断する時は、そのまま自転車を押し歩きしたほうが安全であると指導した。子どもたちは、こうした基本動作を繰り返し練習しながら身につけていく。

交通教育指導員と子どもたちの指導にあたった鈴鹿市危機管理部交通防犯課副参事の清水和彦さんは「歩いている時は自分が止まろうと思ったら、すぐに止まれますが、自転車は自分がブレーキを操作しないと安全に止まれません。ブレーキを使わずに足を地面につけることで止まろうとする子どももいますから、私たちは両手で正しくブレーキ操作して止まる方法を身につけてもらうことに重点を置いています」と、指導のねらいを語る。

自転車教室を見守った所長の宮崎さんは「身体を使うことで、座学で学んだ知識を身につけることができ、子どもには効果的だと思います。また、保護者の方々の意識も高めていく必要があるので、子どもたちに『今日、学んだことをお父さんお母さんに教えてね』というだけでなく、自転車教室の内容は『園だより』を通じて家庭にもお伝えしています」という。

座学ではパネルシアターなどを活用し、「止まる」「観る」の重要性を説明

実技は10mほどの直線コースを保育所の庭に設定し、そこを子どもたちに自転車で走ってもらう

止まったら、降車して右、左、右、右後方を確認

左から鈴鹿市危機管理部交通防犯課副参事の清水和彦さん、鈴鹿市交通教育指導員の宮崎利香さん、近藤麻里さん、森友里さん

発進する前に右後方の安全確認するよう繰り返し指導

止まる時は「両手でブレーキ、ギュッ」を実践してもらう

ヘルメットはあごひもを正しく締めないと意味がないことを伝える

鈴鹿市立西条保育所所長の宮崎美佳さん

Safety Info.　インフォメーション②

2017年Honda安全運転普及本部 年末ご挨拶会 開催
交通事故ゼロ社会の実現に向け、様々な領域でチャレンジを続けていく

昨年12月1日、Honda青山ビル（東京都港区）にて「2017年Honda安全運転普及本部年末ご挨拶会」が開催され、交通関係者約300名が参加した。

報告会では八郷隆弘・本田技研工業（株）代表取締役社長が「Hondaは6月に『2030年ビジョン』を発信しました。『すべての人に生活の可能性が拡がる喜びを提供する』というステートメントに強調されるこのビジョンは、Hondaが創業100年を超えた後も、社会から存在を期待される企業であり続けるための指針となるものです。そして、『2030年ビジョン』の中で、クリーンで安全・安心な社会をめざし、交通事故ゼロ、CO2排出ゼロの実現をリードするという方向性を掲げました。Hondaは、これからも交通事故ゼロ社会の実現に向け、安全運転技術、安全運転教育はもちろん様々な領域でチャレンジを続けてまいります」と挨拶。

続いて、原田洋一・本田技研工業（株）安全運転普及本部事務局長が、2017年の安全運転普及活動の報告と今後の取り組みについて映像を交えて紹介した。

最後に、来賓を代表して桝田好一・警察庁交通局長が挨拶。「安全運転普及本部が展開している活動について説明をいただき交通事故ゼロ社会の実現に向けて、『ヒト』『テクノロジー』『コミュニケーション』の3つの領域で活動を継続されているということでございまして、たいへん心強く感じています。警察といたしましては、薄暮時間帯や夜間に重点を置いた街頭活動など総合的な交通事故対策を強力に推進しておりますが、さらに対策の成果を上げるためには、より一層関係機関・団体の皆様との連携を強化して国民一人ひとりの交通安全意識高揚を図っていくことが必要不可欠と考えています。その観点からも、安全運転普及本部の取り組みへの期待はますます大きく、先進性・独自性のある交通安全活動を積極的に推進していただけるようお願い申し上げる次第です」と述べた。

報告会の後には、懇談会が開かれ、交通関係者の交流の場となった。

八郷隆弘・本田技研工業（株）
代表取締役社長

桝田好一・警察庁交通局長